


ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.45 2017年2月15日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

寒さも底を突き、中目黒界隈の住宅地にも梅の花をあちこち見かけるようになりました。年度替わりと「春探し」が重なって、自然界にも生活にもいのちの胎動をおぼえる季節。今年はいつ頃、神学校正門近くの白木蓮が開花するか、楽しみです。祈っている手に似た大輪の花が打ち上げ花火のように咲いて、それはそれは見事。今年のイースターは4月16日ですから、さすがに目黒川の桜も散って、新緑が目まぶしいことでしょう。ただ、花粉が辛い季節でもありますね。

「主よ。あなたのみわざはなんと多いことでしょう。あなたは、それらをみな、知恵をもって造っておられます。地はあなたの造られたもので満ちています」(詩104:24)

校長 関野祐二

● 教育課程プレ開講迫る

数年にわたる準備を経て、いよいよ「教育課程」が4月より前後期1科目プレ開講。かわいい女の子が「せんせい♪ おしえてね♪」と歌う、教育課程の案内パンフ、ご覧になりましたか。聖契神学校の「しごき系」3Sを構成する二人(あとひとりはいうまでもなく)の情熱と賜物で実現に至った教育課程が、単発セミナーと別格の充実したカリキュラムであることは一目瞭然。ニーズがどの程度あるかとの疑心暗鬼も、問い合わせの電話やメールですいぶん払拭されました。先日のバレンタインデーには、3S+事務2名が神学校面談室(通称「真ん中の部屋」)に集結。太巻き寿司とチョコレートをつまみながら、想定されるあらゆるケースや問い合わせに対応すべく、知恵を絞りました。出来るだけ門戸を広げたい、でも基礎的な神学教育を前提とするコンセプトは譲れない、その両者がせめぎ合います。Y先生がタブレットで図式化し、一同フムフム。本校卒業生はもちろん、他神学校卒業生でも条件を満たせば学べますから、まずはお問い合わせください。先陣を切って4月前期からは「ユースミニストリー」クラスが木曜午前に始まります。「聖契の福〇雅△」を自称するMS先生(約20年前、神学校デビューのクラスで<骨のある>学生でした)が担当。途中、「ユースと信仰~信仰と科学~」のひとコマで筆者も登場する予定です。ユースのクラスだから、教卓の椅子に「どっこいしょ」と座らないよう、気をつけないと。

● 営業成績トップか

神学校には、新刊の神学書情報がいち早く届きます。また、他では入手困難な講演資料などが集まります。伝道者の端くれですから、「これは良い!」と思ったら(一種の福音ですね)、皆に知らせずにはいられなくなります。だから、勢いその「営業」に突き進むことになるのです。前回のレター以降、何種類の本を何冊売りさばいたことでしょう。チャペルで「これは『買い』です!」と紹介すると、在校生から漏れる苦笑。またまた始まったと。最近では、昨年11月25日本校を会場とした「JEA信教の自由セミナー」の収録「聖書信仰と信教の自由」ブックレッ

ト50冊が数日で完売（自分の講演も入っているので余計熱心）。何も儲からないけど、知的財産の共有（格好良すぎ）は何よりの喜びです。「あの本は良かったです！」との報告を受けると、ますます図に乗って、さらなる営業にばく進するのです。組織神学クラスの参考文献は増える一方。

● 陽のあたる校長室

玄関脇の校長室は、多目的。冬の午前は奥まで日が差し、電線だらけでも青空が見えるので、窓に向かうデスクの前に座って祈る、朝の時間は格別です（日光を浴びすぎてオット居眠り）。すぐに持ち出して使えるよう、望遠鏡の置き場にも（ドアを開けているため、郵便局員や宅配業者の目に留まり、時には星の会話をするこも）。クラスで配布する資料を一時的に置いたり、直前に先週のクイズを採点したり、いろいろですが、なんと言っても面談室としての用途が一番重要でしょうか。特にこの年明け時期は、学校見学者へのガイダンスはもちろん、個人面談期間として頻繁に在校生が出入りします。今年は卒業生の中に10年選手が複数いることもあり、なんだかこちらも感慨無量。思い出話に花が咲き、これが最後の面談かと思うと寂しくて、つい30分の枠を超えてしまいます。在校生の場合は進級や編入、来年度の科目選択を確かめ、祈りの課題を聞いて祈ります。さて、映画「陽のあたる教室」は作曲家志望の主人公が生活のためハイスクールの音楽教師となり、授業に忙殺されながら若者たちを育て、耳の不自由な息子と心通わし、予算削減で失職するも、卒業生がサプライズお別れ感謝会で彼の作曲した唯一の交響曲を演奏するとの筋書き。育てた卒業生そのものがシンフォニーなのだ、とのエンディングは心に染みしました。セイケイ交響曲、さて、どんな楽器で演奏しますかね。長調の曲であることだけは確かです。

● 卒業式に向けて

このレターがお手元に届く頃は、入学願書締め切り一週間前。すでに問い合わせや願書をいくつもいただいています、まだ間に合いますのでぜひどうぞ。「今が受験の日、今が入学の時」です（そんなみことばがありましたっけ）。3月3日に入学試験を行います（たぶん夜8時頃まで）。そして3月13日（月）午後6時半より、第64回卒業式。またあの独特な解放感と高揚感を経験できるのが楽しみです。濃い個性の面々8名が専門科を卒業します。説教者は長野県からお呼びする、同盟・東御（とうみ）キリスト教会の辻浦信生牧師（なんと神学校の後輩。いろいろ「貸し」アリ）。感謝会も盛り上がるでしょうね。春休みには寮の入れ替えがあって（その間、イスラエルを撮影旅行）、4月1日（土）午後6時半が入学式。どんな入学生を何人、式の中で紹介できるかとてもワクワクします。3日（月）から前期授業開始。さて、どんな雰囲気の新年度になるでしょうか。実は、その週末から3週連続で土曜日に在校生卒業生の結婚式。牧師就任式にも招待されています。なんとも幸せな職務だな、とつくづく思います。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 召しを受け、諸教会の推薦を受けて送り出される、相応しい入学希望者が豊かに与えられ、新年度から共に学ぶことができるように。3月3日の入学試験が守られるように。
- ・ 卒業を控えた8名の学びと卒業後の働き。3月第2週までの、在校生の後期学びのため。4月プレ開講する『教育課程』『ユースミニストリー』の履修者が多く与えられるように。
- ・ 新年度、新入生を加えた在校生の前期学びが支えられるように。教職員15名の働き。

- 本校の管理運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。